

千葉市消防局消防艇「まつかぜ」

1. 新しい高速多機能型消防艇の誕生

千葉港は、貨物取扱量9年連続日本一（平成14年度）を誇る物流や生産の拠点として日本経済発展を支える特定重要港湾であり、千葉市の発展に大きな役割を果たしてきています。さらに、幕張副都心ウォーターフロント計画やポートルネッサンス21構想など臨海部の発展が今後も続き、大きく変貌を遂げつつあります。

この千葉港の中央地区（千葉市域）を災害から守るため、二代目「まつかぜ」が建造され、平成16年3月15日に就航しました。

当センターは、「まつかぜ」の基本計画・建造管理を担当しましたので、概要を紹介します。

2. 基本コンセプト

高速多機能型消防艇として誕生した背景には、大規模且つ広域災害への対応能力を強化するとともに、平時においては石油コンビナート地域を含む沿岸域の状況把握に基づく沿岸域管理の必要性が強く認識されてきたためです。

災害時への対応能力を向上させるためには、海と陸空がそれぞれの役割を相互に補完し合うことが必須です。このため、海上における高い機能・能力を消防艇に付与し、大規模災害時の中核的役割を担わせる目的を本艇は与えられました。このようなコンセプトから、本艇に特に付与された機能は消防能力・流出油対策・耐航性などの強化とともに、次の機能が新たに付加されました。

1) 指揮・作戦機能

陸海空の三位一体連携を図り、大規模災害時の海上指揮本部機能付加

2) 陸上への支援機能

陸上への大量送水機能、緊急物資・資機材輸送機能付加

3) 救助・高度救命救急機能

陸上の救急隊と連携して救命措置・

搬送し、ヘリコプターへのホイスト機能付加

本艇では、多機能を実現するため、本船固定装備以外に必要な機能をコンテナ収納として岸壁保管し、迅速に搭載して機能を発揮することでも計画されています。

さらに、災害時への対応能力を向上させるためには、平時の消防艇の役割が重要となります。常に、陸上・海上の状況のみならず海潮流を含む沿岸域の実態を把握し、災害シュミレーションやその対応計画立案などを通じて、リスクマネジメント構築に反映させる必要があります。

また、平時における市民の防災意識を普及啓発し、市民に親しい消防艇を目指すこととしました。

主要目などを表に示します。

3. おわりに

ここに航走状態と全放水状態の2葉の写真を掲載しましたが、これらより高速性と多機能性を兼ね備えた優美なシルエットが分かっていると思います。

新しい社会情勢に対応する高速多機能型消防艇として建造された「まつかぜ」の今後の活躍が、大いに期待されます。

最後に、本艇の建造に当たって、深い経験に基づく指導力を発揮された千葉市消防局そして多数の消防艇建造のノウハウを遺憾なく注ぎ込まれた墨田川造船にご尽力いただいたことを付記します。

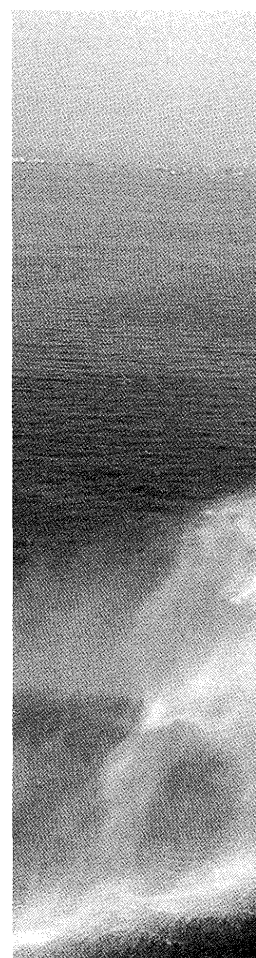


表 主要目など

全長	31.00m
全幅	7.00m
深さ	3.50m
総トン数	100 トン
航海速度 (常備状態)	17 ノット
主要装備	
1) 消防装備	
放水砲	15,000 l/min×2、 5,000 l/min×2
伸縮放水砲	7,000 l/min×1 (海面上 20m 対応能力)
陸上支援用大口径放水口	150mm 両舷各 3
2) 指揮・作戦装備 (情報収集・判断・伝達機能)	
指揮作戦室 (大画面高精細表示装置装備)	
大規模災害時等関係機関連絡通信装置	
沿海航行用通信装置	
赤外線監視装置	
ヘリコプター映像受信装置	
電子海図表示システム	
3) 陸上への支援機能	
多目的クレーン	
専用コンテナ×4 セット (流出油対策、大規模災害時陸上支援、 救急救助対策、予備)	
4) 救助・高度救命救急装置	
高度救命処置室兼活動準備室	
ヘリコプターとのホイストスペース	
ジェット推進型救助用小型艇×2	
海面自動昇降式救助ラダー	
海底探知ソナー	
5) その他	
防爆性能 (海面上 6m、陽圧付加装置)	
定点保持機能付自動操船システム	

